

## 3 . 調査結果

### 3 - 1 概要

プロジェクト実施後の活動内容を調査したところ、カウンターパート(C/P)はほとんど継続して従事していること、供与機材も独自に修理するなど適切に維持・管理されていること、プロジェクトの成果を生かし、第三国研修を通じて周辺国への技術協力が実施されていること、開発した診断技術の活用及び実験動物の配付によって得られる収入を獣医学部の運営費や研究費に活用できるようになっていることなどが確認された。また、本アフターケアの実施によりラ・プラタ大学獣医学部の診断技術の向上のみならず、延長が検討されている第三国研修における研修内容のレベルアップが期待され、アフターケア実施の妥当性が十分確認された。

### 3 - 2 カウンターパートの定着状況

プロジェクト実施時に配置された90名のカウンターパートは、9割以上が現在も継続して従事していることが確認された。

### 3 - 3 供与機材の管理及び使用状況

供与機材について、故障した場合には民間の修理会社に依頼する、あるいは独自に修理するなどの自助努力を行っており、大部分が現在も使用されていることが確認された。またスペアパーツの調達に関しては、ほぼすべての部品が現地代理店より調達でき、入手不可能な物に関しては外国より輸入しているとのことであった。これら機材の修理・維持にかかる経費は、各研究室の予算の範囲内で捻出している。

### 3 - 4 施設の整備、管理及び使用状況

プロジェクト実施中に建設された実験動物舎においては、ウルグアイなど周辺国に実験動物の販売を行うなど、独自に研究費を獲得していることが明らかになった。1999年の収入は6万2,500ドルであり、そのうち1万2,500ドルは獣医学部共通の運営費に活用され、5万ドルは実験動物学講座自身の運営費として、奨学金などの人件費、動物飼料や試薬など消耗品、機材(オートクレーブや空調システム)の維持管理などに充てられている。このように、同学部においては、各研究室の収入のうち2割は獣医学部共通の運営資金に、残り8割は各研究室の研究費や機材の維持・管理費などに充てられることになっている。

また2000年度には、プエノス・アイレス州競馬場の寄付により、馬の運動生理に関する研究施設が建設された。

### 3 - 5 チャスコムス診断研究センター( CEDIVE )

ラ・プラタ大学獣医学部の附属機関であり、当初プロジェクトにおいてはプロジェクトサイトとして位置づけられていた。特にフォローアップ協力期間においては、実験動物学講座とともに重点的に強化が図られた。教官、学生ともにラ・プラタ大学獣医学部に所属しており、ほぼ全員がフルタイム勤務している。近年、ウイルス学、微生物学、寄生虫学、血清学、病理学、臨床学及び栄養学分野などの研究活動を行っており、主に診断サービス料により収入を得ている。診断サービスに関しては、近隣牧場からフィールドのサンプルを容易に得ることができるというメリットがあり、牧場の期待も大きく、現在約600から700牧場よりサンプル提供を受けている。

本調査の結果、フォローアップ終了後も診断サンプル数、獣医師の数、獲得した診断サービス料が増加していることが明らかになり、自助努力が十分に認められた。

ただし、現在行っている診断サービスに関しては順調であるが、新たな研究に割く時間や予算が不足しているため、罹患率の高い疾病に関する診断技術がまだまだ不十分であり、予防や治療が困難な状態である。よって、本アフターケアにおいて新たな診断技術を獲得させるとともに、研究活動を活発化させることが必要である。

### 3 - 6 臨床関連講座の活動状況

各研究室はそれぞれの診断技術を用いて独自に経費を獲得している。ただし、研究室間での活動上の連携が不足しているために、研究の発展が阻害され、効率的な診断や研究費獲得ができない状態である。

また、効率的な予防・治療を妨げている他の要因として、機材や設備が十分に整っていないことがあげられる。特に小動物臨床(家畜病院)等では、前学部長の方針により、機能が他の研究室に移行していることもあり、機材や設備がほとんどない状況であった。ただし、一部の研究室では、使用機器( X線画像処理装置や超音波診断機など)が非常に旧式であるにもかかわらず患畜の診断を行っていることから、技術レベルそのものは高いことが予想された。その一方で、現在使用している機器を用いた診断には限界があり、今後の研究のレベルアップはもとより、正確な診断や診断技術そのものの向上も望めない。

本アフターケアの実施によって、診断技術そのものが向上するとともに、効率的かつ正確な予防・治療が行えるようになり、ラ・プラタ大学獣医学部のレベルアップに寄与することが期待される。よって、本アフターケアを通じて臨床関連講座を重点的に強化することの妥当性が確認された。

なお、同学部には臨床分野を強化するうえで必要とされる動物の焼却施設も完備されており、既存の施設を利用してアフターケアを実施することが可能であると判断された。